

理科部会

高鷹美恵子

新学習指導要領を批判的に検討していきたい

理科部会の活動

2016年、理科部会は、「審議のまとめ」「小学校の新学習指導要領（案）」について検討してきました。4月5月と連続で公開講座を開きジグソー法についての批判検討と、どうすれば自然科学の本質を学ぶ授業を実践できるのかについて、小佐野正樹さん高橋洋さんに提案していただくことができました。2017年4月からは中学の新学習指導要領の検討を始めています。

新学習指導要領で理科はどうなるか

私は、理科は「自然科学の基礎となる事実や概念・法則を子ども達に学習させること」が目標になると考えています。けれど、現行の小学校の学習指導要領の目標は、心情的内容、操作的な内容が重視されてきたため、自然についての科学的な理解があまりにされてきました。新学習指導要領では、「見方・考え方を

働かせ」「科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する」となり、さらに「あいまいになりました」。

そして、「主体的に問題を解決する態度」が強調されています。今までも、子ども達に課題や実験の仕方を考えさせる、という授業が子どもや教師を混乱させてきました。子ども達が考えた実験が出来なかつたり、間違った結果を出してしまつたりしたとき、どう修正するかは大きな問題です。「本当はこうなるはず」と教師がまとめてしまうのでは、理科の面白さは味わえないでしょう。

自然科学の法則に沿った単元のねらい、課題を考え、それを解決するための実験や観察、映像などの資料を準備することが教師の仕事であり、子ども達は集団で課題について検討しあい、その決着をつけるための実験や観察に臨む。そして、結果をもとにして確かになったこと

を自分の言葉でまとめる。そんな授業こそが本当の意味での「主体的に学ぶ」となのだと思います。

また、各学年の「内容」についての文末表現が「次の事項を身に付けることができるよう指導する」となっています。これまでは、子どもの立場から書かれていたものが、「指導する」と初めて教師の立場からの記述になりました。これは、「教え方」そのものを規定することになり、教師の自由な指導の工夫を妨げるものです。

部会に参加を（どなたでも参加できます）

学習指導要領に書かれている通りに教科書が作られ、その教科書通りに教えるように言われることが多くなっていることを考えると、学習指導要領を批判的に検討することは、ますます重要になってくると思います。一人では、なかなかできないことも部会に参加することで学ぶことが出来ます。理科部会は毎月第2木曜日、6時30分からエデュカス6階会議室で部会を開いています。忙しい中ですが、月に1回参加してみませんか。

（葛飾・鎌倉小）